

令和5年度事業報告書

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

学校法人 上宮学園

上宮高等学校
上宮太子高等学校
上宮学園中学校

学校法人 上宮学園

I.法人の概要

1.建学の精神

本学園の建学の精神は法然上人の理想を実現することであり、したがってその指導原理は上人の仏教精神にあることは言を俟たない。学園に関係するものは当然その本源を尋ねてひとえに法然上人に依るべきで、本学園が法然上人を学校祖と仰ぐゆえんである。学園の歴史はわずか130年であるが、その130年に至るまでの歴史は遥かに長いのである。

法然上人の理想とするところは校歌『月影』にこめられている。

「月影の いたらぬ里は なけれども 眺むる人の 心にぞ澄む」

これは校祖法然上人の御作で、仏様の慈愛について述べておられるものである。仏の慈愛はさながら月光に似て、人の世のすみずみまでを照らす。しかしながら、月明かりを良いものだと感じ取ることのできる人にだけ月光の良さがわかるように、ああこれが仏の慈愛なのだ、と感じ取ることのできる人にだけ、慈悲の心は通じる。仏恩とはそのようなもの、と説いておられる。本学園ではこの月影の歌を校歌にしており、卒業生は校名一つないこの歌を校歌としている母校に、限りない母校愛と誇りを感じ、巣立つのである。

この精神を具現化するために定められたものが、校訓であり、学順である。

校訓「正思明行」～正しく考え、明るく行動する～

何気ない言葉のようだが、邪悪なことを考えていて、立派なことがやれるわけがない。小さなことにくよくよして、大事業が達成できるわけがない。要は心のもちかた。他者が見て、この人にはついて行けると思われるような人物は、いつも考えていることが清く正しく、その言動もおのずと清明で、正々堂々としているものだ。生徒諸君にそういう立派な人物になれという校祖の思いが、この四文字に込められている。

また上宮には昔から「学順」と呼ぶ教訓が存在する。

「一に掃除、二に勤行、三に学問」。この「掃除」はしばしば誤解されるのであるが、仏道ではもっと哲学的な意味をもち、俗世を浄土のごとく掃き清め、もって俗念を断つ。『往生要集』にもある、穢土を厭い浄土を求める、その心がけが第一で、つぎに己が身の力の限り努力して勉学に勤しめば、学問は自ずから身に備わり、その真価を発揮するという意味である。

以上のことはいずれも仏の叡智に根ざすものである。現代のようなコンピュータ万能の時代でも、いや、むしろ、このようなブラック・ボックスの伴うテクノロジーが人智を凌駕する時代に生きるからこそ、この叡智は大事なのである。いたずらに俗世の成功を求めず、人間ほんらいの生き方と「知の真価」を求める。上宮学園では法然上人のこの人道と仏の慈愛を多くの若者に分け与えて、130年の伝統を経てもなお脈々と受け継がれている。

2.法人の沿革

上宮高等学校は、明治23年(1890)浄土宗を母胎として創立された。以来130年以上の長い歴史を刻み、幾多の卒業生を送り出してきた。大阪で最も古い学校のひとつとして、永い歴史の中で培われてきた伝統を大切に、きめの細かい教育を推進している。

明治23年(1890年)大阪大教会支校を生玉大宝寺に開く

明治34年(1901年)学制変更により修業年限4年を5年に変更

明治39年(1906年)中学校と同等の認定

明治45年(1912年)財団法人上宮中学校設立許可

昭和4年(1929年)鉄筋本館竣工

昭和10年(1935年)定員1250名認可 鉄筋新校舎の建設案成る

昭和14年(1939年)新校舎(現2・3・4号館)竣工

昭和22年(1947年)新制上宮中学校発足

昭和23年(1948年)新制上宮高等学校発足

昭和26年(1951年)学校法人上宮学園へ組織変更認可

昭和36年(1961年)校祖750年遠忌式

昭和38年(1963年)高等学校志願者5259名に達す 5号館竣工

昭和42年(1967年)中学校の募集停止 太子町鉄骨校舎着工

昭和44年(1969年)太子町校舎高1授業開始

昭和49年(1974年)高2 2コース制実施

昭和54年(1979年)太子町鉄筋校舎ならびに合宿所竣工式

昭和56年(1981年)総合体育館竣工式 90周年記念式

昭和59年(1984年)上宮高等学校6号館竣工

昭和60年(1985年)上宮中学校復活開校(於、太子町)

上宮中学校体育館竣工、太子町学舎体育館竣工

昭和63年(1988年)上宮高等学校太子町学舎開設

平成1年(1989年)上宮高等学校太子町学舎校舎竣工

平成2年(1990年)創立100周年記念式典

平成3年(1991年)上宮高等学校太子町学舎が上宮太子高等学校として独立

平成5年(1993年)上宮中学校が上宮太子中学校へ変更

上宮中学校開校(於、天王寺)

上宮高等学校硬式野球部選抜野球大会初優勝

平成22年(2010年)上宮学園創立120周年記念式典

平成23年(2011年)校祖800年大遠忌

上宮中学校・高等学校、上宮太子中学校男女共学化

平成24年(2012年)上宮太子高等学校男女共学化

平成26年(2014年)上宮高等学校3年 平岡卓

冬季オリンピックスノーボードハーフパイプ銅メダル受賞式典

平成30年(2018年)上宮中学校と上宮太子中学校が合併し、上宮学園中学校へ校名変更

令和元年(2019年)南グラウンドに新校舎竣工 上宮学園中学校と上宮高等学校 新校舎へ移転

令和2年(2020年)旧校舎解体 グラウンド竣工

令和4年(2022年)上宮学園中学校2年 平林花香 夏季デフリンピック水泳入賞

3. 設置学校(所在地・コース等)

i 上宮高等学校 〒543-0037 大阪市天王寺区上之宮町 9 番 36 号

全日制 普通科 パワーコース・英数コース・プレップコース

ii 上宮太子高等学校 〒583-0995 大阪府南河内郡太子町太子 1053

全日制 特進Ⅰ類(国公立大学)コース、特進Ⅱ類(難関私立大学)コース、総合進学(有名私立大学)コース

iii 上宮学園中学校 〒543-0037 大阪市天王寺区上之宮町 9 番 36 号

特進コース・Gコース

4. 校地・校舎面積

名 称	校地面積 m ²	校舎面積 m ²
上宮学園中学校・上宮高等学校	25,557	25,503
上宮太子高等学校	39,504	24,176
合 計	65,061	49,679

5. 学則定員

名 称	学則定員(各 3 学年合計)
上宮高等学校	2,280
上宮太子高等学校	840
上宮学園中学校	360
合 計	3,480

6. 生徒数・学級数 (令和 5 年 5 月 1 日現在)

名 称	学年	生徒数	学級数
上宮高等学校	1 年	665	17
	2 年	601	16
	3 年	648	18
上宮太子高等学校	1 年	159	5
	2 年	189	6
	3 年	148	4
上宮学園中学校	1 年	131	4
	2 年	106	3
	3 年	106	3
合 計		2,753	76

7. 役員・評議員（令和 5 年 4 月 1 日現在）

i 役員（定員 理事：7 名、監事：2 名）

理事 7 名（うち、理事長 1 名、理事 6 名）監事 2 名

理事長 甲斐龍二（上宮学園長）

理事 水谷善仁（上宮学園中学校・上宮高等学校長）

寺澤久弥（上宮太子高等学校長）

原田和成（上宮学園法人事務局長）

間野泰治（上宮学園顧問弁護士）

川中光教（浄土宗代表役員 宗務総長）

山北光彦（浄土宗大阪教区長）

監事 木田眞敏・毛利虎之助

ii 評議員（定員 15 名 うち、理事兼任 7 名）

金安克之（法人職員）

松井保（法人職員）

石井邦紀（法人職員）

横倉廉幸（卒業生）

神田眞晃（卒業生）

甲斐龍二（上宮学園長）

水谷善仁（上宮学園中学校・上宮高等学校長）

寺澤久弥（上宮太子高等学校長）

原田和成（上宮学園法人事務局長）

川中光教（浄土宗代表役員 宗務総長）

山北光彦（浄土宗大阪教区長）

鈴木伯隆（浄土宗僧侶）

間野泰治（上宮学園顧問弁護士）

水谷川源昇（学識経験者）

淵昭嘉（学識経験者）

8. 教職員（令和 5 年 5 月 1 日現在）

教職員数	教諭	常勤講師	非常勤講師	事務職員	合計
上宮高等学校	83	0	58	24	165
上宮太子高等学校	25	3	27	10	65
上宮学園中学校	19	4	8	2	33
合計	127	7	93	36	263

Ⅱ.事業の概要

浄土宗を母体とする本学園は、法然上人の仏教精神を教育の根底において、知育・徳育・体育のバランスのとれた全人教育をおこない、慈悲の精神を育てることを目標とする。

校訓「正思明行」の基、人間としてのあるべき生き方と真理を探究する正しい心の眼と思いを持ち、理想を求めて主体的に行動できる生徒を育成するために、教授法の改善を推進し、より質の高い教育の実践をはかる。

令和元年度に新校舎が完成し、新たな教育環境の整備を進める。

保護者会、同窓会及び、教育振興協力会の支援・協力による ICT 環境の整備、リモート授業を活用してのコロナ対応、デジタル採点等の業務の合理化などの取り組みを実施する。

今後に向けても、その長い歴史にとらわれることなく、時代に応じた改革を遂行し、更なる精進努力を続けるとともに、社会貢献できる人づくりを目指す次第である。

Ⅰ.法人

令和 5 年度 第 1 回理事会・評議員会

日時 令和 5 年 5 月 29 日(月)

会場 評議員会:多目的室 理事会:本校応接 1

議案第 1 号 令和 4 年度事業報告について

議案第 2 号 令和 4 年度決算(案)について

議案第 3 号 令和 5 年度予算(案)について

議案第 4 号 令和 5 年度特待生について

議案第 5 号 その他について

令和 5 年度 第 2 回理事会・評議員会

日時 令和 5 年 12 月 15 日(金)

会場 評議員会:多目的室 理事会:本校応接 1

議案第 1 号 校内役員人事について

議案第 2 号 令和 5 年度第 1 回補正予算(案)について

議案第 3 号 令和 5 年度中間報告(財務面・教務面)について

議案第 4 号 上宮高等学校・上宮太子高等学校学則(カリキュラム)変更について

議案第 5 号 その他について

令和 5 年度 第 3 回理事会・評議員会

議案日時 令和 6 年 3 月 26 日(火)

会場 評議員会:多目的室 理事会:本校応接 1

議案第 1 号 役員人事について

議案第 2 号 令和 6 年度事業計画(案)について

議案第 3 号 令和 6 年度当初予算(案)について

議案第 4 号 その他について

財務部管財係

本年度は南キャンパス及び北キャンパス各館の維持確保を中心に、既存設備の改修・交換等、補修工事を実施致しました。

また、太子高等学校校舎の外壁改修（3期工事）を実施致しました。

1ー総合体育館アリーナ天井耐震改修工事	61,380,000 円
2ー総合体育館アリーナ電動バスケットゴール補修	7,150,000 円
3ーA館第2体育館屋根張替工事	6,094,000 円
4ーA館第2体育館LED照明更新	2,486,000 円
5ー本館5階美術室床防振・防音加工	2,420,000 円
6ー北館ウォータークーラー更新	787,600 円
7ー太子校舎外壁外装タイル補修工事（第3期工事）	10,450,000 円
合計金額	90,767,600 円

2.上宮高等学校

i.執行部関係

【上宮学園中学校共】（令和5年度）

校 長 水谷 善仁	中学教務部長 橘 誠
高校教頭 木戸 俊治	生活指導部長 米田 文昭
高校教頭 金安 克之	進路指導部長 三吉 宏和
中学教頭 國岡 博史	入試対策部長 北村 吉隆
高校教務部長 西側 博基	

【基礎データー】

生徒数（年初数）

1 年生 665 名、17 クラス、クラス平均生徒数 39.1 名
2 年生 601 名、16 クラス、クラス平均生徒数 37.6 名
3 年生 648 名、18 クラス、クラス平均生徒数 36.0 名
合計 1,914 名、51 クラス、男子 1,216 名、女子 698 名、比 64:36

転退学者等

1 年生 退学者 10 名（男子 6 名、女子 4 名）、うち転学者 8 名（男子 5 名、女子 3 名）
2 年生 退学者 11 名（男子 9 名、女子 2 名）、うち転学者 10 名（男子 8 名、女子 2 名）
3 年生 退学者 2 名（男子 1 名、女子 1 名）、うち転学者 0 名（男子 0 名、女子 0 名）
合計 退学者 23 名（男子 16 名、女子 7 名）、うち転学者 18 名（男子 13 名、女子 5 名）
昨年度比 -4 名（0.85 倍）、全生徒数に対する割合は 1.2%（過去の全国平均 1.5%）

教員数

合計 165 名

専任教諭 65 名（校長、教頭含） 常勤教諭 18 名 非常勤講師 43 名 派遣講師 15 名
事務職員（理事長、事務局長、事務長含）16 名 非常勤事務職員 8 名

定年退職者 稲井啓子、蟹山喜代美、栗栖有文、野口喜生、原田秀夫、水本忠延、和気康弘

早期退職者 堀田泰彦

退職者 木村直美、青山佳代 計 10 名

【教務関係】

新型コロナウイルス感染症が令和5年5月8日から「5類感染症」になり、コロナ禍前の学校生活を徐々に取り戻しつつある。行事については体育大会が久しぶりに3学年揃っての開催となった（文化祭は人の出入りが多いため制限を加えての開催）。新校舎での授業等では、プロジェクターを使った授業風景が普通となり、デジタルの教務システムを本格的に導入され、先生方が手に iPad を持って授業に向かうようになった。プロジェクターの使用方も多数存在し、先生方がその力量と授業形態及び教科の特色に応じて、使い分けることが出来るシステムであったことも幸いし、ICT化が順調に進捗し、生徒の方も遺憾なく受け入れているように思える。今年度は1年生と2年生が iPad を活用している。

【修学旅行】

昨年度は、11月にオーストラリアのシドニーへの3泊5日の日程で実施し、566名が参加した。天候にも恵まれ、異国の自然や文化に触れる修学旅行となった。ファームステイ体験やシドニー市内の自主研修等、生徒の満足度は高かったと思われる。世界規模でインフルエンザが流行していたが、結果的に大過なく実施することができた。

【語学研修等】

今年度は、以下の海外における語学研修等を実施、セブ島17名・ケアンズ18名の参加者があった。

8月 フィリピンセブ島語学研修

3月 オーストラリア・ケアンズ語学研修

ii.広報関係 ※志願者数には欠試者も含まれます。

①学校説明会

入学希望者を対象に9月から12月にかけて、月に一度、計4回の説明会を実施している。今年は会場設営の関係で、開始時間を14時から14時30分に遅らせた。遅らせたことによる影響はほぼないと考えられる。ここ3年間はコロナ禍のため各回定員制にしている。今年は1,400名定員制・完全予約制で実施。どの回も約600組の参加があった。全体の参加者組数は、2,517組から2,540組に増加した。

○今後について

- ・生徒が前面に出るような説明会も考えていても良いのではないか。
- ・保護者・卒業生の起用を考えてみるのも良いのではないか。
- ・申し込み開始から数日で締め切りという状況になっていた。もう少し収容できるように工夫が必要ではないかと考える。

②塾対象説明会

本年から学校において実施した。コロナ禍のため昨年度同様1塾1名の制限を設けた。実施時期も実際に塾の先生方が、進路指導を始める9月（夏休み後の五ツ木模試・駿々堂模試の結果が出る）に実施。参加塾数は、205塾であった（前年度は202塾）。学校実施は校舎を見ることができ大変好評であった。次年度以降もこの時期で良いのではないかとと思われる。

○今後について

- ・保護者・卒業生の起用を考えてみるのも良いのではないか。
- ・レジュメの字が小さい、メモを取るのに机や台がない等の要望が出ている。取り入れることができることから取り入れていきたい。

③私学展

毎年多数の来場者が見込まれる中で、上宮学園中学校・高等学校のブースを訪れる人数は共学になって増加の一途をたどっている（特に高等学校）。管理職・各分掌部長・サポートの先生方の応援があり、少しは混乱も解消したかと思う。両日の参加者は高等学校 254 組、中学校 10 組であった。（前年 高等学校 258 組、中学校 11 組）

対応する先生方の人数が少ないので、整理券配布時間に並んでいただいても説明を聞くことができない方がいらっしゃるため、今後何とかして先生方の人数を増やすことができるようにしていきたい。

④特筆すべき点

高校入試も決して楽観視できない状況である。共学とアクセスと大学への推薦の数と制服とに助けられて集まっているといっても過言ではない。志願者数は前年よりも 35 名減少、専願志願者 50 名増加、併願志願者 85 名減少している。大阪府、奈良県の内訳をみると、大阪府では総志願者数、専願志願者とも増加している。また奈良県では、総志願者数、専願志願者とも減少している。これは、大阪府、奈良県の私立高校等授業料無償化制度の影響かと思われる。併願志願者の歩留まりが例年と比較すると、非常に悪かった。例年の歩留まりを見ると年により若干の違いはあるが、パワーコース約 10%から約 12%、英数コース約 11%から約 13%、プレップコース約 12%から約 15%であるのが、今年はパワーコース 8.0%、英数コース 9.6%、プレップコース 9.3%となった。本校を併願で受験する受験生の志願する公立高校の倍率は例年並みであったことを考えると、志願する公立高校が変わってきているのではないかと考える。

今後さらに専願志願者を増やす方策（例えば出前授業、特待生制度の充実・資格取得における読み替え制度あるいは加点制度等）を検討する必要があると思われる。

今年度から、以前実施していた管理職との本部への挨拶回りを実施した。

⑤入試関係

中学校への実力テストの基準は、すべてのコース、専願・併願とも昨年と変更していない。また、五ツ木書房の模擬試験においても、一番受験生が多い第 6 回（11 月実施）で上宮高等学校を志望校に入れている生徒が、専願 331 名、併願 915 名、合計 1,246 名（前年、専願 257 名、併願 1,075 名、合計 1,332 名）と専願で 74 名増加し、合計では 86 名の減少が見られた。

その結果 2024 年度入試においては、受験者 1,842 名（専願 434 名併願 1,408 名）合格者 1,790 名（専願 409 名併願 1,381 名）入学者 535 名（専願 409 名併願 126 名）となり、昨年より 43 名減少した。なお、2023 年度入試においては、受験者 1,873 名（専願 380 名併願 1,493 名）合格者 1,826 名（専願 367 名併願 1,459 名）入学者 574 名（専願 367 名併願 207 名）であった。

ここ数年の受験者を見てみると 2019 年度入試では 2,200 名以上受験していたが、じりじりと減少してきている。全般的な少子化の影響もあるが、受験生（特に専願希望者）を増加させる方策を考えなければならない。

iii.進路関係

1. 大学等進学状況の概況

令和5年度卒業生(共学11期生)は646名(昨年度625名)。学年全体の現役合格率(大学・短期大学・専門学校合格)は94.0%(昨年96.8%、一昨年94.9%)でここ数年95%前後を推移している。

2. 令和6年度入学入試を取り巻く環境について

1) 2021年度入試より大学入試改革による大学入試区分の名称変更が行われ、これら名称も定着してきている。

①AO入試⇒総合型選抜

②推薦入試⇒学校推薦型選抜(スポーツ推薦入試・連携指定校制推薦入試・公募制推薦入試)

③一般入試⇒一般選抜

④「評定平均値」⇒「学習成績の状況」に呼称変更

2) 新型コロナウイルスの5類移行の大学入試などへの影響等。

①昨年に続き、年内入試(推薦入試)の志願者増で高止まり。

②本校では「連携・指定校制推薦入試」での出願が50%台から約40%に減少。

3) 18歳人口が減少するなか、私立大学では、「補欠からの繰り上げ合格」および「追加合格」の増加を抑えるため、合格者数を増加させ全体的に易化。結果的に、本校の私立大学合格者も維持または増加した。

(4の2参照)

例:「関西大学」:複数回の繰り上げ合格を発表。

2/29に第1回目437人、3/24に第2回目86人の繰り上げ合格発表

(昨年2/27 731人、3/25 160人、一昨年2/27 1350人、3/25 20人)

「近畿大学」:複数回の繰り上げ合格・追加合格を発表

2/24に第1回目195人、3/19に第2回目0人の繰り上げ合格発表

(昨年2/24 258人、3/18 60人、一昨年2/24 706人、3/19 372人)

等、「補欠からの繰り上げ合格」「追加合格」が昨年に続き減少傾向にある。

3. 本校の令和5年度卒業生の最終進学先の状況

令和5年度卒業生の最終進学等状況					
卒業生	4年制大学	短期大学	専門学校	就職	その他*
646	559	6	22	1	58
割合	86.5%	0.9%	3.4%	0.2%	9.0%

*「就職者」内訳:公務員

*「その他」は進学準備・留学準備等(大学等に合格したが入学しなかった生徒も含む)

令和4年度卒業生の最終進学等状況					
卒業生	4年制大学	短期大学	専門学校	就職	その他*
625	569	6	27	3	20
割合	91.0%	1.0%	4.3%	0.5%	3.2%

*「就職者」内訳:公務員(2)、一般企業

*「その他」は進学準備・留学準備等(大学等に合格したが入学しなかった生徒も含む)

4. 大学別合格者について

1) 国公立大学合格者 30 名(昨年度 28 名) *現役・過年度生を合わせた大学別実人数

【令和3年度～令和5年度の国公立大学合格状況 過年度比較】

国公立大学合格者								
令和5年度			令和4年度			令和3年度		
(卒業生数 646 名)			(卒業生数 625 名)			(卒業生数 549 名)		
順位	大学名	人数	順位	大学名	人数	順位	大学名	人数
1	大阪公立大	5	1	和歌山大	4	1	和歌山大	7
2	和歌山大	4		大阪教育大	4	2	大阪公立大	5
3	大阪教育大	3	3	大阪公立大	3	3	神戸大	2
4	京都府立大	2	4	神戸大	2		和歌山大県立医大	2
	神戸市立外国語大	2		鳥取大	2		徳島大	2
	奈良県立大	2		神戸市立外国語大	2	6	大阪大	1
	愛媛大	2	7	京都工芸繊維大	1		京都教育大	1
	高知工科大	2		奈良教育大	1		大阪教育大	1
9	神戸大	1		奈良県立医大	1		奈良教育大	1
	奈良教育大 等	1		奈良県立大 等	1		奈良県立医大 等	1
	合計実人数	30		合計実人数	28		合計実人数	30
	うち現役実人数	28		うち現役実人数	22		うち現役実人数	26
	国公立型クラス現役生数	128		国公立型クラス現役生数	120		国公立型クラス現役生数	126

①国立大 15 名(うち現役 15 名) ②公立大 15 名(うち現役 13 名)

2) 私立5年制大学 大学別合格者実人数 824 名(うち現役 790 名)卒業生 646 名

* (昨年度 839 名 うち現役 785 名)卒業生 625 名

* (一昨年度 715 名 うち現役 662 名)卒業生 549 名

【令和3年度～令和5年度の私立大学現役合格者 Best20 過年度比較】

私立大学現役合格者 *現役生のための大学別合格実人数で比較								
令和5年度			令和4年度			令和3年度		
卒業生数 646 名			卒業生数 625 名			卒業生数 549 名		
1	近畿大	111	1	近畿大	99	1	近畿大	75
2	龍谷大	68	2	龍谷大	70	2	摂南大	63
3	関西大	61	3	関西大	62	3	龍谷大	53
4	摂南大	51	4	摂南大	51	4	関西大	51
5	京都産業大	31	5	追手門学院大	48	5	大阪工大	32
6	追手門学院大	30	6	桃山学院大	29		追手門学院大	32
7	大阪工大	28	7	大阪経大	25	7	桃山学院大	22
8	大阪経大	27	8	同志社大	23	8	同志社大	20

	武庫川女子大	27		武庫川女子大	23	9	武庫川女子大	18
10	桃山学院大	26	10	関西外大	21	10	甲南大	16
11	同志社大	20	11	大阪工大	20	11	京都産業大	15
12	大阪電気通信大	19	12	京都産業大	18	11	畿央大	15
12	関西外大	19	13	立命館大	17	13	大阪電気通信大	14
12	関西学院大	19	14	関西学院大	16	14	大和大	12
15	同志社女子大	18	15	大和大	14	15	大阪経大	11
16	甲南大	17		畿央大	14		関西外大	11
17	大和大	16		神戸学院大	14	17	立命館大	10
18	立命館大	14	18	同志社女子大	13		京都女子大	10
19	畿央大	13		甲南大	13	19	関西学院大	9
20	神戸女学院大	10	20	京都女子大等	11	20	同志社女子大等	8
	合計実人数	790		合計実人数	785		合計実人数	662
	卒業生数	625		卒業生数	625		卒業生数	549

参考：プレップ・6カ年プレップの連携・指定校制推薦入試「被推薦者」数の推移

年度	共学	合計	%	文系	%	理系	%
R5	11期	193	39.6	119	36.5	74	45.7
R4	10期	203	42.1	149	37.5	54	63.5
R3	9期	213	53.1	130	52.2	83	54.6
R2	8期	229	50.2	151	50.2	78	50.3
H31	7期	180	35.9	138	36.0	42	35.6
H30	6期	193	39.3	137	40.2	56	37.3
H29	5期	154	30.3				
H28	4期	126	24.6				
H27	3期	157	28.9				
H26	2期	160	32.4				
H25	1期	204	29.8				

*%はプレップ・6カ年プレップの合計在籍人数に対する割合。

3) 私立短期大学合格者 10名(うち現役9名)

私立短期大学合格者 *合格者であり進学者ではない		
令和5年度	令和4年度	令和3年度
10	11	17
うち現役 9	11	15

4) 専門学校合格者 23 名(うち現役 22 名)

専門学校合格者 *合格者であり進学者ではない		
令和5年度	令和4年度	令和3年度
23	30	22
うち現役 22	28	20

5. 進学・勉学に関する進路指導部の主な事業報告

*本年度も、一部の事業で「新型コロナウイルス」の影響が残った。

- 1) ①河合塾「全統模試」は、公開会場での受験が出来るようになったが、公開会場と校内実施では受験料が大きく異なる等の理由により、一部の実施回を国公立コース担当者によって校内での実施となった。
- ②主な連携大学の指定校制推薦入試の「夏期必修プログラム」が昨年同様、中止となった。また一部の大学はオンラインで実施した。
- ③高校各学年の「進路オリエンテーション」「進路説明会」等は全クラス講堂での実施に戻った。
- 2) 卒業生執筆による「合格体験記―後輩につなぐ言葉―」を発刊。高 1・高 2・高 3 生の進路 HR 等の教材として活用した。
- 3) 放課後の学習支援事業「U ゼミ」が開講 10 年目となった。本年度は、1 年を通じて予定通り実施した。本年度は、コロナ関連の出席停止は減少したが、インフルエンザ等による出席停止が増加し、受講できなかった講座の受講料は返金による対応となった。
- 4) U ゼミの「英検合格講座」は本年度より、「予備校トフルゼミナール大阪校」に講師派遣及び教材を委託し、中 1 から高 3 までの希望者を対象として、土曜日放課後に 3 期に分けて開講した。
- 5) 「オンライン英会話」は事業者を「(株)ノバホールディングス」に変更し3年目となった。
中 1 から高 3 までの希望者を対象として、前期 26 名、中期 13 名、後期7名の生徒が受講した。
次年度の改善にむけ、受講料の見直し、サービスの向上を事業者に申し入れた。
- 6) 「夏期講座」は前期 7/26~29、後期 7/31~8/3 で実施した。高校生を対象に前・後期合わせて約 120 講座を開講し、520 名の生徒が受講した。
- 7) 「連携・指定校制推薦入試」に合格の高 3 生徒に、本年度は以下のプログラムを実施した。
 - ①「連携大学の先生による入学前特別講義」
連携協定を締結している甲南大学経済学部教授 2 名による「大学での学びについての講義」と「レポートの書き方の実践演習と添削指導」を 2 日間(午前中)で実施した。
 - ②「Global Studies Program」
昨年度より名称を「エンパワーメントプログラム」から「グローバルスタディーズプログラム」と変更し実施した。本年度は令和6年 2 月に A グループ 13 日~15 日、B グループ 19 日~21 日の日程で実施。参加生徒 202 名を A グループ 102 名、B グループ 100 名に分け、更にその中で会場を 2 か所に分けた。A グループ 12 カ国 17 名、B グループ 12 カ国 17 名の国際学生と、外国人ファシリテーター2 名が来校して、本校生徒の指導にあたった。

8)「進路ガイダンス」

本年度より、高校 2 年生を対象に実施した。36 大学の担当者に本校へ来校いただき、各大学の特徴と入試制度について説明を行ってもらい、生徒は、36 校から 3 校を選び受講した。

尚、次年度は、高 2 に加え高 1 も対象に実施予定。

3.上宮学園中学校

【基本データ】

生徒数(年初数)

1 年生 131 名、4 クラス、クラス平均生徒数 32.7 名

2 年生 106 名、3 クラス、クラス平均生徒数 35.3 名

3 年生 106 名、3 クラス、クラス平均生徒数 35.3 名

合計 343 名、10 クラス、男子 224 名、女子 119 名、男女比 65:35

転退学者等

1 年生 転学者 3 名(男子 1 名、女子 2 名)

2 年生 転学者 6 名(男子 4 名、女子 2 名)

3 年生 転学者 1 名(男子 1 名、女子 0 名)

合 計 転学者 10 名(男子 6 名、女子 4 名)

昨年度比 +7 名 ※全生徒に対する割合 2.9%

転入者 0 名

教員数

合計 33 名

専任教諭(教頭含)12 名 常勤教諭 7 名 常勤講師 4 名 非常勤講師 6 名 派遣講師 2 名

事務職員 2 名

早期退職者 佐々木裕司、細川貴司 計 2 名

i 広報

①学校説明会

入学希望者を対象に 9 月から月に一度 11 月まで合計 4 回学校説明会を実施している。説明会のスタイルは高校とほぼ変わらないが、少しスタイルを変えても良いのではないかと考えている。2022 年度入試から公開授業見学会に代わり、学校見学会を 2 回実施した。プレテストも 2 回実施している。その結果、2023 年度入試の説明会参加組数は 1,533 組(説明会 492 組、校内見学会 101 組、一般学力プレテスト 552 組、適性検査プレテスト 388 組)であったが、2024 年度入試は 1,538 組(説明会 523 組、校内見学会 111 組、一般学力プレテスト 531 組、適性検査プレテスト 373 組)に増えた。特にプレテストの適性検査の受検者増加においては、開成教育セミナー様への校舎貸し出しの好影響かと考える。

○今後について

- ・生徒が前面に出るような説明会も考えていっても良いのではないか。
- ・保護者・卒業生の起用を考えてみるのも良いのではないか。

②塾対象説明会

高校と内容は同じ

③私学展

高校と内容は同じ

④中学校フェア

4/23(日)に10:00~16:30で実施。

66組の相談があった。

⑤特筆すべき点

特に留意すべき点は近畿圏にある私立中学校の入試レベルが二極化しており、全体的なレベルが下がっているという事実と受験の可能性のある児童数が激減しているにもかかわらず、中学生の募集をする学校数はさほど変化がないというこの2点である。

上宮学園中学校の立ち位置はレベル的に言えば特進で偏差値50ほど、Gコースで45と言っているが、偏差値が50あるならば、明星・清風・大阪女学院に十分合格できる(40台でも合格する可能性は高くなっている)。その結果、大阪府内の私立中学校の半分以上の学校が定員を満たせなくなった。児童急減期に現在の生徒数を確保できるように、その方法を考える必要があると思う。(関東圏ではプログラミング入試、ものづくり入試、ICT思考力入試、多面的入試・資格取得における読み替え制度あるいは加点制度等々実施されている。)

ここ数年は、管理職との塾本部への挨拶回りを実施していなかったが、2024年度入試以降は中学入試に重点を置きながら、管理職と入試対策部長との塾本部への挨拶回りを実施した。

⑥入試関係

入試方法においては、一般学力型入試では午後入試以外特進コース・Gコースとも入試教科数は、2教科・3教科・4教科。午後入試では2教科。適性検査型入試では2教科。自己アピール型では基礎学力考査、作文、面接で入試を実施した。

中学入試においては全体で、

志願者 554名

(1次一般学力型午前122名、1次一般学力型午後176名、1次適性検査型95名、
2次一般学力型161名、自己アピール型0名)

合格者 456名

(1次一般学力型午前113名、1次一般学力型午後139名、1次適性検査型86名、
2次一般学力型118名、自己アピール型0名)

入学者 138名

(1次一般学力型午前97名、1次一般学力型午後19名、1次適性検査型9名、
2次一般学力型13名、自己アピール型0名)

であった。2023年度と比較すると、

志願者 488名

(1次一般学力午前124名、1次一般学力午後157名、1次適性検査49名、
2次一般学力156名、自己アピール2名)

合格者 402名

(1次一般学力午前112名、1次一般学力午後123名、1次適性検査47名、

2次一般学力119名、自己アピール1名)

入学者131名

(1次一般学力午前97名、1次一般学力午後15名、1次適性検査7名、

2次一般学力11名、自己アピール1名)

全体で約70名の志願者が増加した。自己アピール型入試以外で志願者が増加したが、特に適性検査の増加が著しかった。開成教育セミナー様への校舎貸し出しの好影響かと考える。

ii. 教務関係

(1) 学校評価の総括から()内は自己評価

- ① 日々の行事運営 (A)
- ② 教務係との業務の連携、運営 (A)
- ③ 教員間の情報の共有・連携 (A)
- ④ 中高教務の連携 (B)
- ⑤ 会議や連絡会について (B)
- ⑥ 教務会の円滑な進行について (A)
- ⑦ 六カ年を見据えた教育の充実 (B)
- ⑧ 校外学習及び総合学習の充実と積極的な取り組み (A)
- ⑨ 上宮学園中学入試の実施と諸問題の検討 (B)
- ⑩ 保護者会との協力 (B)
- ⑪ 部活動の充実に繋がる取り組み (B)

(2) 祖山参拝、芸術鑑賞

- ① 祖山参拝は中学1年生が実施(4月)。
- ② 芸術鑑賞については、全学年が「シルクドソレイユ」を鑑賞(8月)。

(3) 中3国内研修旅行

今年度は沖縄県で実施(7月)。

(4) スキー実習

中1、中2の全員が、志賀高原スキー場にて3泊4日で実施(2月)。

(5) 体育大会

エディオンアリーナにて全学年そろって実施(11月)。

(6) 上記以外の行事(各学年主導の校外学習)

1年:『がん教育講演会』実施(8月)

『カップヌードルミュージアム』(大阪府池田市)見学(10月)。

『司馬遼太郎記念館』(東大阪市)見学及び清掃活動(12月)。

『国際交流型まちなかロゲイニング』実施(3月)。

2年:『キッサニア甲子園(西宮市)』(5月)。

『太子ミカン狩り』と『上宮太子高校見学』を実施(10月)

思春期教室をクラス別で実施(11月と12月)。

3年：『グローバル体験』（ECC 英語学院）をクラス別で実施（8月）。

富士通 SDGs プログラムを実施（11月）。

『ひらかたパーク』（大阪府）での自由研修実施。（3月）。

iii. 課外活動関係（全国大会以上を記載）

◎ソフトテニス部

- ・第54回全国中学校ソフトテニス大会 団体戦 優勝
個人戦 1ペアが準優勝

◎卓球部

- ・第54回 全国中学校卓球大会 団体戦 ベスト16
- ・全国中学校選抜卓球大会 団体戦 ベスト16
- ・全日本卓球選手権大会 カデットの部 2名出場
ジュニアの部 1名出場

◎柔道部

- ・第54回 全国中学校柔道大会出場 団体戦 ベスト16
個人戦 第2位（73kg級）
ベスト16（81kg級）

◎弓道部

- ・第20回全国中学生弓道大会 女子団体戦出場
（JOC ジュニアオリンピック大会）

◎水泳部

- ・ワールド・デフ・ユース・ゲームズ（ブラジル サンパウロ）個人
50m 背泳ぎ 2位
100m 背泳ぎ 1位
200m 個人メドレー 2位

◎フェンシング部

- ・第9回全国中学生フェンシング選手権大会 個人戦 2名出場

○総括

コロナウイルスの影響がなくなり、令和5年度は、学校行事をほぼ順調に進めることができた。

今年度も昨年度に引き続き、募集人数を大きく超える（138名）新入生の入学があった。女子生徒の人数が増加することで校内の雰囲気が変わるが、嬉しいことに、今年度は女子の比率が40%を超えることができた（40.6%）。今後も女子生徒が、安心して出願し入学してくれる学園を目指していきたい。

保護者説明会は予定通り実施できた。しかし、授業参観に関しては廊下より通りながら眺める形態の実施であった。ぜひ来年度は教室の中に入る形態で実施したいと思っている。

昨年に続いて海外研修旅行に代わる国内研修旅行や 1・2 年合同スキー実習、芸術鑑賞、そして大切な祖山参拝は実施することができた。これらを実施することで、生徒たちには、今までのコロナウイルスの影響を受けた日々とは違う学校生活を送ってもらえたのではと思っている。

学習面においては、英語暗唱大会、ネイティブによる授業、年 3 回の英検校内実施など、英語能力向上のためのプログラムを工夫・実施し、少しずつ成績面で現れてきていると感じている。また、英語だけでなく、生徒たちの学力が向上するよう更に考えていかなければならないと感じている。

i 執行部関係

校 長	寺澤 久弥	生徒指導部長	尾山 友昭
教 頭	淵 昭嘉	進路指導部長	福田 和憲
教務部長	田中 良和	入試対策部長	佐々木哲也

【基礎データ】

生徒数(年初数)

1 年生	159名	5クラス	クラス平均生徒数	31.8名
2 年生	189名	6クラス	クラス平均生徒数	31.5名
3 年生	148名	4 クラス	クラス平均生徒数	37.0 名
合 計	496名	15 クラス	男子 307名	女子 189名 男女比 62:38

転退学者等

1 年生	退学者5名(男子4名・女子1名)	うち転学者5名(男子4名・女子1名)
2 年生	退学者4名(男子2名・女子2名)	うち転学者4名(男子2名・女子2名)
3 年生	退学者0名(男子0名・女子0名)	
合 計	退学者9名(男子6名・女子3名)	うち転学者9名(男子6名・女子3名)
※昨年度比-8名 全生徒に対する割合は 1.8%		

教職員数

合 計 65 名

専任教諭	20 名(校長、教頭含)	常勤教諭	5名	常勤講師	3名	非常勤講師	24名
派遣講師	3名	事務職員	3名(事務長含)	非常勤事務職員	5 名	派遣事務職員	2 名
退 職 者	寺澤久弥、阪口雅則、春成こみち	計	3 名				

ii 入試対策 広報関係

☆令和5年度の校内説明会について

☆R5	校内説明会比較				1月13日付						
年度	6月中旬	8月下旬	9月	10月初旬	10月下旬 11月初旬	11月中旬 ～下旬	12月初旬	12月中旬	合計	専願受験者数	
2018			オープン9/8	入試説明会①10/8	UTフェスタ10/27	入試説明会②11/19	入試説明会③ 12/8	直前説明会 12/16	916組	110	
			158組(312名)	82組(165名)	105組(177名)	170組(310名)	178組(336名)	223組(445名)	(1745名)		
2019			オープン9/7	入試説明会①10/6	UTフェスタ10/25	入試説明会②11/17	入試説明会③ 12/8	直前説明会 12/15	887組	138	
			175組(330名)	70組(144名)	116組(212名)	167組(319名)	156組(316名)	203組(399名)	(1720名)		
2020				入試説明会①10/4	オープン10/31	入試説明会②11/21	入試説明会③ 12/6	直前説明会 12/13	657組	121	
				60組(112名)	241組(416名)	88組(153名)	138組(335名)	130組(261名)	(1177名)		
2021			UTフェスタ①9/11	入試説明会①10/9	UTフェスタ② 10/30	入試説明会②11/3	UTフェスタ③11/20	入試説明会③ 12/4	直前説明会 12/12	170	
			116組(232名)	51組(82名)	114組(193名)	85組(143名)	138組(232名)	163組(311名)	170組(298名)		(1507名)
2022		UTフェスタ①8/27	UTフェスタ②9/17	入試説明会①10/2	UTフェスタ③ 10/22	入試説明会②11/3	入試説明会③ 12/3	入試過去問 解説会12/11	884組	121	
		115組(232名)	133組(234名)	39組(76名)	130組(237名)	79組(155名)	173組(324名)	215組(384名)	(1642名)		
2023	クラブ体験会6/17	UTフェスタ①8/26	UTフェスタ②9/16	UTフェスタ③10/14	入試説明会①11/3	入試説明会②11/19	入試説明会③ 12/3	入試過去問 解説会12/10	996組	159	
	48組(72名)	144組(307名)	133組(259名)	152組(296名)	86組(170名)	97組(191名)	146組(282名)	190組(354名)	(1931名)		
☆学校見学											
6月(1組)、7月(4組)、8月(2組)、9月(8組)、10月(2組)、11月(12組)、12月(14組)、1月(2組)											

※コロナが落ち着いたことと、6月にクラブ体験を1回増やしたこともあり、校内に足を運んでくれた中学生の人数が確実に増えている。

☆校外説明会・ブースについて

2024年度入試 説明会参加予定表						2024/1/16				現在	
月	日	曜	行事	主催	会場	2020	2021	2022	2023	2024	
6	4	日	私立中・高等学校進学相談会in天王寺	産経アドス	あべのハルカス	16		15	17	32	
7	2	日	産経新聞私立中・高等学校 入試説明会	産経アドス	大阪府立体育会館	46		6	25	35	
7	8	土	私立中学校高等学校合同説明会	情報誌 ばど	堺市産業振興センター	29	16	30	27	35	
8	12	土	大阪私学展1日目		天満橋OMMビル	90	44	26	63	72	
8	13	日	大阪私学展2日目		天満橋OMMビル	94	23	23	68	73	
8											
9	2	土	中学校・高等学校進学説明会2024	みらいカンパニー	SAYAKAホール					23	
9	16	土	明光義塾進学相談会	明光義塾	京セラドーム	35		24	31	32	
9	17	日	2023年度 進学情報展	社団法人全国学習塾協会	天満橋OMMビル	18	5	1	13		
9	18	祝月	2023開成進学フェア大阪会場	開成教育セミナー	マイドーム大阪					16	
9	18	祝月	奈良県 明光義塾進学相談会	明光義塾	奈良県社会福祉総合センター	8		7	5	7	
9	18	祝月	私立中学・高等学校進学フェアin堺	大阪朝日広告社	堺市商工会議所					3	
9	23	土	私立高校説明会 透塾	透塾	透塾 樋原校				30	24	33
9	23	土	中学校・高等学校進学説明会2024	みらいカンパニー	堺市産業振興センター						11
9	24	日	私立中・高等学校進学相談会：天王寺	産経アドス	あべのハルカス	14	5	10	13	7	
9	24	日	「第18回私立中学・高校入試相談会」	中和教育研究会	奈良県社会福祉総合センター	29	24	31	24	30	
10	1	日	第27回 私立中学・高校入試相談会	香芝研究会	ふたかみ文化会館	38	27	31	22	21	
10	1	日	五ツ木 進学説明会	五ツ木書房	天満橋OMMビル	6	21	6	15	23	
10	1	日	奈良県進学博	学習塾優	奈良商工会議所				4	8	7
10	1	日	学校説明会	田中塾	ゆめニティまつばら3F					4	3
10	28	土	たまき塾主催 説明会	たまき塾	広陵町ふるさと会館グリーンパレス					8	7
10	29	日	進学ガイダンス	泉州私塾連合	テクスピア大阪	9			11	3	1
						432	165	255	370	471	

※コロナ禍で実施していた説明会における時間短縮や人数制限などがなくなったことで、多くの外部説明会において参加者が増え、保護者・生徒に上宮太子の案内をすることができた。

☆五ツ木の模試について

		1回(5月)		2回(6月)		3回(7月)		4回(9月)		5回(10月)		6回(11月)		7回(12月)		受験者数	入学者数
		第一志望	専願者	第一志望	専願者	第一志望	専願者	第一志望	専願者	第一志望	専願者	第一志望	専願者	第一志望	専願者		
2021	特進Ⅰ類	4	1	1	1	6	1	46	12	48	5	61	9	31	9	157	18
	特進Ⅱ類	1	0	3	0	5	2	28	3	35	6	68	27	49	22	154	38
	総合進学	8	0	9	3	16	4	114	29	111	29	169	39	68	33	237	141
	合計	13	1	13	4	27	7	188	44	194	40	298	75	148	64	548	197
	全受験者	3597		5065		8194		27232		25871		46847		19468			
2022	特進Ⅰ類	0	0	2	0	2	0	37	5	35	4	74	13	36	13	186	26
	特進Ⅱ類	1	0	3	0	2	0	21	5	45	10	64	16	40	18	154	38
	総合進学	13	0	7	1	13	2	97	20	113	27	177	41	73	34	219	95
	合計	14	0	12	1	17	2	155	30	193	41	315	70	149	65	559	159
	全受験者	3816		4890		7273		27424		26201		47416		17720			
2023	特進Ⅰ類	4	0	0	0	5	0	28	2	26	6	53	6	27	8	182	18
	特進Ⅱ類	1	0	1	0	5	1	21	6	40	9	57	15	29	12	150	34
	総合進学	3	1	4	1	13	6	84	13	80	21	125	37	67	31	225	118
	合計	8	1	5	1	23	7	133	21	146	36	235	58	123	51	557	170
	全受験者	4245		4622		6490		23652		23400		43707		16266			
2021との合計比較		-5	0	-8	-3	-4	0	-55	-23	-48	-4	-63	-17	-25	-13		
2021との全受験者比較		648		-443		-1704		-3580		-2471		-3140		-3202			
2022との合計比較		-6	1	-7	0	6	5	-22	-9	-47	-5	-80	-12	-26	-14		
2022との全受験者比較		429		-268		-783		-3772		-2801		-3709		-1454			

11月における全国の受験者数がかなり減った。高校入試で上を目指す子と、今の力でいける高校にいくと考え模試を受けない子の二極化が進んでいる。五ツ木としてもこの減少には危機感を感じている。

本校としても、11月の模試に於いては上宮太子を志望する人数が例年より減っている。総合進学コースのレベルの生徒が模試を受けなくなったとも考えられる。

☆外部説明会について

上宮太子の魅力をしっかり伝えることで、校内説明会や見学に結びつけて、そこで気持ちを掴めば受験者数も増えてくる。

令和5年度 受験希望者からみる外部イベント参加状況

イベント名	専願	併願	合計	参加人数	%
上宮祭	15名	11名	26名	56名	46.4
見学	17名	8名	25名	51名	49.0
6/4 産経アド ハルカス		2名	2名	32名	6.3
7/2 産経アド 大阪府立体育館	3名		3名	35名	8.6
7/8 私立合同説明会inなかもず	2名	3名	5名	35名	14.3
8/11,12 私学展	14名	8名	22名	145名	15.2
9/2 南大阪進学説明会		7名	7名	23名	30.4
9/16 明光義塾説明会(京セラ)	3名	2名	5名	32名	15.6
9/17 社団OMM	1名		1名	12名	8.3
9/18 開成教育フェア(マイドームおおさか)	1名	1名	2名	16名	12.5
9/18 明光義塾説明会(奈良)		6名	6名	7名	85.7
9/23 進学説明会(堺商工会議所)	1名	1名	2名	3名	66.7
9/23 透塾私立高校説明会		8名	8名	33名	24.2
9/24 産経アド(ハルカス)	2名		2名	7名	28.6
9/24 中和教育研究会「第18回」		9名	9名	30名	30.0
10/1 五ツ木OMM	1名	1名	2名	23名	8.7
10/1 香芝研私立相談会(ふたかみホール)		7名	7名	21名	33.3
10/28 たまき塾私立高校説明会		1名	1名	7名	14.3
資料請求	11名	9名	20名	70名	28.6

☆オープンキャンパスについて

昨年度より、1学期の早い段階でクラブ体験会を行った。他校はまだ実施していないので中学・塾にはインパクトがあった。クラブ応援の顧問が中学のクラブ顧問と連絡をとって参加を促したことで参加人数も多かった。クラブ体験ではなく授業体験を選ぶ子も増えてきている。

令和5年度 体験イベントと成績相談

					専願(本人希望)						専願参加重複				
	参加人数	成績相談	専願	併願	総専_A	総専_他	特Ⅱ_A	特Ⅱ_他	特Ⅰ_A	特Ⅰ_他	クラブ体験	OPⅠ	OP2	全制覇	OC制覇
クラブ体験	48	14	10	4	7		1	1	1						
OC_Ⅰ	143	72	43	29	33		4	2	3	1	2				
OC_2	132	72	45	27	32		6	1	5	1	2	10			
OC_3	152	73	48	25	39		5	2	3	1	4	10	14	1	2
計	475	231	146	85	111	0	16	6	12	3					
純計	418	188	109	79	83	0	11	5	7	3					

成績相談		557	158	399	113	0	25	5	8	7
------	--	-----	-----	-----	-----	---	----	---	---	---

☆入試説明会について

昨年度よりオープンキャンパスと入試説明会の時期を明確に分けてメリハリをつけた。多くの生徒が興味をもって説明会に参加し受験に結びついているので、公立との違いや上宮太子の良さを生徒、先生で作り専願で受験するよう持っていくことが重要。

令和5年度 入試説明会と成績相談

					専願(本人希望)					
	参加者	成績相談	専願	併願	総専_A	総専_他	特Ⅱ_A	特Ⅱ_他	特Ⅰ_A	特Ⅰ_他
入試説明会①	85	49	30	19	20		7	2	1	
入試説明会②	97	70	50	20	37		5	1	3	4
入試説明会③	146	110	63	47	42		10	2	6	3
入試説明会④	190	169	105	64	77		15	4	5	4
計	518	398	248	150	176	0	37	9	15	11
純計	366	256	127	129	90	0	21	4	7	5

成績相談		557	158	399	113	0	25	5	8	7
------	--	-----	-----	-----	-----	---	----	---	---	---

専願

未参加	31	OP未参加	14
参加回数 1回	51		
参加回数 2回	42		
参加回数 3回	23		
参加回数 4回	11		

☆オープンキャンパスにおける授業体験について

上宮太子を希望する生徒の中には、クラブを思いっきりやりたい子もいるが、そこまでクラブに入りたいことを望んでいない子もいる。昨年度は授業体験を希望する子が多くいた。特に社会・数学の受講者から受験に結びついている。教科としても魅力のある授業体験をすることで専願者数を伸ばすことが出来る。

2023年度のオープンキャンパス踏まえて

受験者数	556	専願	162	併願	394
				内_先決	2
				内_戻り	6

	参加人数	受験者	受験者		入学数		参加種別		授業 (受験)	授業 (専願)	授業 (併願)
			専願	併願	専願	併願	クラブ	授業			
クラブ体験	48	14	10	4	10	1	48				
UT-1	143	73	44	29	44	0	143				
UT-2	132	73	46	27	46	0	91	41	21	15	6
UT-3	152	75	50	25	50	1	108	44	20	12	8
UT2・3:延べ	265	134	82	52	82	1	198	67	28	16	12
全体延べ	414	190	111	79	111	1					

先決

UT-2、3にて参加人数からの受験者数は51%である
その受験者のうち61%（参加者人数の31%）が専願希望者である

参加人数のうち全体の1/4が授業体験のみの体験であり重きを置いている
授業体験者のうち専併含め42%が受験をしている
但し、専願者のみに絞ると24%となる

（クラブは54%が受験し、専願者のみに絞ると33%となる【UT2.3のみ】）

	UT-2			UT-3			
	英語	国語	社会	英語	数学	理科	
申込み	11	12	22	15	18	16	
欠席	2	0	2	2	2	1	
クラブ優先		2	2	5	4	2	
授業優先	9	10	18	8	12	13	67
受験	3	3	12	1	8	3	28
入学	2	1	9	0	5	1	16
専願	2	1	9	0	5	1	16
併願	1	2	3	1	3	2	12
UT2授業体験				○専2	×	1	（○は受験有・×は未受験）
授業優先から 受験者%	33.33	30	66.67	12.5	66.67	23.08	
授業優先から 専願者%	22.22	10	50	0	41.67	7.692	
（UT2授業体験者含）							

☆5年間の志願者数について

昨年度は何とか専願充足率90%超えを取り戻すことができた。

※志願者数（1次入試のみ）

令和2年度入試		
	専願	併願
特Ⅰ	35	178
特Ⅱ	55	81
総合	49	68
計	139	327
	466	

令和3年度入試		
	専願	併願
特Ⅰ	18	196
特Ⅱ	38	92
総合	66	89
計	122	377
	499	

令和4年度入試		
	専願	併願
特Ⅰ	13	147
特Ⅱ	41	118
総合	116	122
計	170	387
	557	

令和5年度入試		
	専願	併願
特Ⅰ	16	172
特Ⅱ	25	129
総合	80	136
計	121	437
	558	

令和6年度入試		
	専願	併願
特Ⅰ	17	181
特Ⅱ	30	121
総合	112	109
計	159	411
	570	

専願者数増の要因について

- ・昨年の8月から、大阪府の無償化についてTV コマーシャルが流れ大阪私学全体の専願率が上がった。
- ・クラブ応援制度の強化で、各クラブ顧問が直接中学のクラブ顧問や、外部チームのコーチ等に直接働きかけたことによる効果がでた。(野球 27 名、サッカー12 名、テニス 2 名、コーラス・吹奏楽 3 名)
- ・総合進学コース専願の3教科受験による受けやすさ。
- ・昨年度と同様に1学期からの定期考査や評定を判定材料としたことで、判定の出る生徒が増え、中学・塾からは助けられたという声が上がっている。
- ・1学期の早い段階でオープンキャンパス(クラブ体験)を1回増やした。
- ・上宮祭のチケット発行からの来校した生徒の 46.4%が受験に結びついている。
- ・大阪府が、文理学科のみに力を入れていることや、公立のオープンキャンパスが楽しくなくて、私立の方が施設も良く、行事も楽しそうで、コース制もあるため公立の不人気が高まった。

☆特待生について

特待生候補については、16 人に声をかけて1人確定。本校の受験者のレベルでは特進1類で頑張っ国公立学を目指そうと思っている子が少ないのが現状である。

☆公立高校について

全体の平均倍率

昨年度は 1.13 倍 ⇒ 今年度は 1.05 倍 (普通科の平均倍率は 1.04 倍)

文理学科 TOP10 高の平均倍率 1.35 倍

※109 校中の 44 校(約 4 割)が定員未充足

※近隣高校

富田林 3 校(富田林高校、河南高校、金剛高校)すべて未充足

河内長野1校(長野高校)も未充足

夕陽丘(1.19 → 1.23)、阿倍野(1.40 → 1.06)、東住吉(1.22 → 1.19)、
阪南(1.22 → 1.06)、布施(1.28 → 1.08)、山本(1.21 → 1.05)、
八尾(1.41 → 1.08)、大塚(1.08 → 0.82)、河南(1.02 → 0.95)、
富田林(1.12 → 0.96)、金剛(0.98 → 0.98)、懐風館(0.69 → 0.63)、
長野(0.82 → 0.76)、藤井寺(1.18 → 1.02)、狭山(1.18 → 0.98)、
登美丘(1.33 → 0.96)
橿原(1.15 → 1.01)、畝傍(1.06 → 1.19)、桜井(1.19 → 0.99)、
香芝(1.19 → 1.08)

※公立不人気の要因について

授業料無償化の影響が大きい。授業料公立(10 万 8 千円)、私立(60 万円)

金額が同じならば、施設がきれいで、コース設定が整っている私立が選ばれるのは当然。

通信制高校への進学者が、昨年度より 300 名増えた。不登校、起立性障害の子も増えている。

府下の募集定員を 500 名以上増やした(河南高校も 40 名増)

以上のことより、今年度は、昨年度より公立志願者が 2400 名減少した。

☆他の私学について

関西福祉科学大学:270 募集中、専願 322 →252↓
 初芝立命館:立命館コース 120 募集中、専願 143 →119 ↓
 阪南大学:440 募集中、専願 368 → 448(併願 878)
 四天王寺東:175 募集中、専願 83 →149 (併願戻り率 8% 30人程度)
 初芝富田林:205 募集中(昨年 157)、専願 61 →65
 上宮太子:175 募集中、専願 121→159

※2年前は関西福祉と初芝立命が専願で集めていた。

大学がついているだけでは集まらなくなっている。

どの私学も危機感を感じている。何も手を打たない高校はつぶれていく可能性あり。

☆人口減少について

人口戦略会議より（有識者でつくる民間組織）

少子化や人口減少により、2020 から 2050 までに 29 歳～39 歳の女性人口が 50%以上減少し、

いずれ消滅する可能性がある自治体について

全国の自治体のうち約4割が消滅する可能性あり。そのうちの 12 市町村

富田林市、河内長野市、柏原市、門真市、泉南市、阪南市、豊能町

能勢町、岬町、太子町、河南町、千早赤阪村

☆学年別人口

地域	現高1	中3	中2	中1
大阪市	20696	20541	20328	20465
堺市	7169	7274	7202	7031
八尾市	2122	2096	1994	2017
柏原市	601	538	488	447
松原市	866	882	851	789
藤井寺市	573	553	512	554
羽曳野市	818	854	758	743
大阪狭山市	517	505	531	489
富田林市	1090	982	985	991
太子町	125	116	95	93
河南町	123	153	117	136
千早赤阪村	32	36	30	31
河内長野市	849	862	860	820

	中学校数	生徒数
令和元年	521	221,426
2年	519	220,342
3年	517	221,610
4年	515	219,494
5年	513	217,213

☆大阪府全体 小学校学年別人口

年代	6年	5年	4年	3年	2年	1年
令和元年	74253	73697	72272	72048	70919	69824
2年	73796	72438	72174	71025	69913	68538
3年	72455	72171	71039	69919	68515	68334
4年	72041	70896	69787	68330	68145	67648
5年	70917	69754	68312	68085	67579	65819

※確実に子どもの数は減ってくる。学校も生徒の取り合いになる。

☆来年度に向けての動き

小中学校の授業時間の短縮。現在は小学校が45分、中学校が50分

小中とも5分短縮して小学校40分、中学校45分に変更を検討。年間の授業時間数は変えない。

授業が5分短くなれば、小、中ともに約85時間（5075分）の差が生まれ、

各校が弾力的に運用できる。

思考力育成を目指した探究活動や、基礎学力定着のためのドリル学習などの指導に生かす。

☆大阪市に学びの多様化学校開校

不登校特別校 心和中学を令和6年4月1日開設（全国では35校あり）

大阪市内の中学で、不登校の子供に配慮した学校を開設

☆神戸市は、県内に通う生徒の交通費を全額免除

県外に通う生徒の交通費のうち12000円を超える分の半額を免除

☆緑涼高校が制服を変える 大阪産業大学附属高校は校舎を建て替える 浪速中高も校舎建て替え

☆N・S高の生徒数2万6197人と増えている。通学コースのキャンパスも全国43カ所に増加

※この他にも、危機感を感じている多くの学校に動きがでてくるであろう。

☆入試対策部として

メンバー		渉外活動 メインエリア
佐々木	部長	太子町、河南町、羽曳野、千早赤阪村、富田林、大阪狭山、美原区
植田	主任	松原、藤井寺、柏原、八尾
柴田	渉外	河内長野、大和高田、橿原、御所、高取町、明日香村
西田	渉外	香芝、三郷町、王寺町、斑鳩町、安堵町、平群町、葛城、桜井、広陵町、田原本町、上牧町、宇陀、河合町、天理、
鶴田	渉外	東住吉、平野、阿倍野、住吉、東大阪（クラブ全般）
中原	渉外	堺、大阪市内
ネリーサ	事務	
須藤、中道	情報	

入試対策部としてやるべきこと

☆中学・塾の先生に太子の良さを知ってもらい、多くの生徒に案内してもらうこと。

☆説明会、ブースを通じて、多くの保護者・生徒に案内をかけて太子に足を運んでもらう。

(SNS、インスタ、スマホ、広報物の有効利用)

☆外部説明会のブースに於いて、保護者には、生活面と進路指導面、大学進学実績を伝え、安心して高校生活を過ごせることを強調する。生徒には、上宮太子での高校生活の楽しさをアピールし学校見学やオープンキャンパス、入試説明会に来てもらえるように勧める。

☆中学、塾の先生方に在校生の日々の様子や成績、クラブ、進学希望などを小まめに伝える事で、丁寧な指導や、きっちり見ている事をアピールする。

すぐに受験してもらえるような魔法はありません。本当に丁寧に気持ちを込めて回るだけです。

☆中学校や塾では、学校ごとに保護者・生徒対象に高校の先生に学校や塾に来てもらって説明会を開催している。新たに説明会や、出張授業、学校見学を開催するところもあります。

その中に上宮太子も呼んでももらえるように願います。

☆どれだけ校内に足を運んでももらえるかが勝負！

※来年以降も、少子化で人口も確実に減ってくることと公立が定員割れとなることは続く。

だからといって上宮太子の受験生が減るわけではない。

今は保護者、塾および中学の先生からの信頼は厚い。太子なら任せて預けられると言ってくれる。

今なら太子に興味を持って、本校に足を運んでくれる生徒も大勢いる。

入試対策部として、しっかり案内することで1人でも多くの保護者・生徒に太子を知ってもらい

本校に来た時に、ここで生活したいと思わせ、繋ぎ止めることで専願に結びつける。

iii 進路関係

【現役大学合格者数】

卒業者数が28名減少。全体の合格数は111減少。合格数は減ったが、出願数も同じく大きく減少しており、生徒一人あたり、併願する大学数が減った事が大きい。

今年度のべ397(卒業者数148)、昨年度のべ508(卒業者数176名)

○国公立大学

昨年度入試と比較して、合格数は2減少したが、特進1類コースの在籍数が12名減(37→25)に対して、現役生の合格数は同じ。さらに、難関国公立大学の合格を複数勝ち取った。

国公立大学合格者数:今年度17(現役17)うち、国立大14(現役14)

昨年度19(現役17・過年度2)うち、国立大13(現役12・過年度1)

今年の卒業生の国公立大合格数は特進1類コースの60%を超えており(25名中16名)、国公立大合格率は過去最高であった。進学率に止まらず、合格大学においても、旧帝大(北海道大、大阪大)に加えて関西の難関国公立大(大阪公立・大阪教育)や地方基幹大(和歌山2、信州)などにも合格者を出しており、非常に優秀な結果であった。生徒の入学時の成績から見れば、3年間の成長は驚異的であったと言える。

○私立大学（関西 8 私大）

過去10年で最高であった昨年度入試と比較すると見劣りするが、合計の合格数では7年連続で100名を突破し、健闘した。私大入試については、今年度も特進Ⅰ類・Ⅱ類コースを中心に精力的に受験したが、残念ながら合格数は伸びなかった。学年全体の生徒数が28名少ない状況に加え、特進Ⅱ類、総合進学ともに成績上位層が指定校推薦入試を積極的に利用したことや、特進Ⅰ類の生徒が国公立受験に影響しないよう、併願受験校を最小限に絞って準備した事で関関同立の上積みがなかった事が要因と考えられる。

関西 8 私大合格者数

2024年度 105名（関西11・関西学院3・同志社3・近畿63・龍谷25）

2023年度 155名（関西17・関西学院4・同志社7・立命館5・京産18・近畿70・龍谷31・甲南3）

2022年度 123名（関西13・関西学院4・同志社1・立命館1・京産12・近畿73・龍谷19）

2021年度 108名（関西5・関西学院4・立命館3・京産4・近畿85・龍谷7）

○34期生の進学状況（卒業者数148名）

4年制（6年制）大学進学者数…139名 短期大学・短期大学部進学者数…2名

専門学校進学者数…4名 進路未決定…3名【内訳：総合進学文系2名（2名とも進学希望せず）、特進Ⅰ類理系1名 ※特進Ⅰ類の1名は、近畿大に合格したが国公立大に再挑戦中】

現役合格率100.0%（昨年度98.9%）、現役進学率99.3%（昨年度98.3%）

（注：現役合格率、進学率の分母は進学希望者数。今年度は146名）

連携・指定校推薦入試枠821名分のうち、受験者数41名（総合進学・特進Ⅱ類コース在籍者の33.3%）

※昨年度と比較して、連携・指定校推薦入試利用者（受験者）数は微増。引き続き、「年内で進学先を決めたい」という全国的な傾向が本校にも現れている。

昨年度は関関同立・産近甲龍を含めた連携・指定校推薦入試枠757名分中、利用者（受験者）数は45名（総合進学コース・特進Ⅱ類コース在籍者の32.3%）

【進路指導方針】

入学当初より、進路指導LHRや総合的な探究の時間を通して、自分を知り、興味付けを行い、大学・学部・学科についてしっかりと調べる時間を取ることで、できるだけ早い時期に目標設定を行うように指導している。また、総合進学コースや特進Ⅱ類の生徒にも、しっかりした基礎学力をつけることで、指定校推薦だけでなく、公募制推薦入試や一般入試にどんどんチャレンジし、第一志望の大学進学をめざすように指導している。

また、昨年度より、今まで教員側のスキルアップのシステム構築を大きなテーマとしている。これまで、新課程への対応や若手教員の授業改善、また、進路指導部と教科・学年との連携を密にすることを重点的に意識して取り組んできた。令和6年度以降も、「アクティブラーニング」と「探究活動」を軸として、新たな取り組みを上積みしていきたい。

教員がスキルアップすることで、生徒の将来とともに、上宮太子高等学校の将来を見据えた取り組みを、今後も継続していきたいと考えている。

○令和6年度に取り組む内容（重点目標）

進路指導部内に学習指導係を新たに創設し、様々な方面から教育を見直し、学力の底上げを図る

- ・全コースの基礎学力向上（全学導入したスタディサプリの有効活用）、教科・学年との連携強化
- ・キャリアナビ（Benesse）の活用による、3年間を通した統一した進路指導
- ・自習教室利用・家庭学習の推進（スタディサプリの活用促進）

- ・模試の分析および事前・事後指導による生徒個別の適切な指導
- ・教員内研修を日々の教育活動に落とし込むことで、教員の意識改革および授業改善をはかる

■上宮太子高等学校 令和6年度入試 大学合格者数一覧(卒業生数148名) 【確定版】

国公立大学						
大学名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
国立大学						
大阪大	1	1	0	0	1	1
北海道大	1	1	0	0	1	1
大阪教育大	1	1	0	0	1	1
和歌山大	2	2	0	0	2	2
信州大	1	1	0	0	1	1
香川大	1	1	0	0	1	1
徳島大	1	1	0	0	1	1
高知大	1	1	0	0	1	1
大分大	2	2	0	0	2	2
鳴門教育大	1	1	0	0	1	1
帯広畜産大	1	1	0	0	1	1
室蘭工大	1	1	0	0	1	1
国立大計	14	14	0	0	14	14
公立大学						
大阪公立大	1	1	0	0	1	1
奈良県立大	1	1	0	0	1	1
公立鳥取環境大	1	1	0	0	1	1
公立大計	3	3	0	0	3	3
国公立大計	17	17	0	0	17	17

文部科学省管轄外						
短期大学名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
水産大学校	1	0	0	0	1	0
文部科学省管轄外計	1	0	0	0	1	0

関西圏 主要私立大学						
大学名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
関関同立						
関西大	10	10	1	1	11	11
関西学院大	3	3	0	0	3	3
同志社大	3	2	0	0	3	2
関関同立計	16	15	1	1	17	16
産近甲龍						
近畿大	63	28	0	0	63	28
龍谷大	25	13	0	0	25	13
産近甲龍計	88	41	0	0	88	41

専門学校等						
専門学校等名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
履正社国際医療スポーツ専	1	1	0	0	1	1
辻調理師専門学校	1	1	0	0	1	1
その他専門学校等	2	2	0	0	2	2
専門学校等計	4	4	0	0	4	4

私立大学						
大学名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
その他の私立大学						
日本大	2	2	0	0	2	2
駒澤大	1	1	0	0	1	1
獨協大	1	1	0	0	1	1
国士館大	1	1	0	0	1	1
関西外国語大	18	10	0	0	18	10
京都外国語大	2	1	0	0	2	1
大阪経済大	4	3	0	0	4	3
大阪工業大	12	6	0	0	12	6
佛教大	2	2	0	0	2	2
畿央大	10	4	0	0	10	4
摂南大	28	13	0	0	28	13
追手門学院大	47	11	0	0	47	11
桃山学院大	16	8	0	0	16	8
大和大	3	3	0	0	3	3
同志社女子大	1	1	0	0	1	1
京都女子大	3	2	0	0	3	2
武庫川女子大	4	2	0	0	4	2
平安女学院大	1	1	0	0	1	1
森ノ宮医療大	3	2	0	0	3	2
関西医療大	4	1	0	0	4	1
滋慶医療科学大	1	1	0	0	1	1
大阪府療大	1	1	0	0	1	1
大阪芸術大	3	3	0	0	3	3
京都先端科学大	1	1	0	0	1	1
京都橋大	3	2	0	0	3	2
天理大	1	1	0	0	1	1
帝塚山大	7	4	0	0	7	4
帝塚山学院大	6	2	0	0	6	2
大阪産業大	28	3	0	0	28	3
大阪電気通信大	10	4	0	0	10	4
大阪体育大	1	1	0	0	1	1
大阪経済法科大	13	5	0	0	13	5
大阪大谷大	3	3	0	0	3	3
大阪成蹊大	2	2	0	0	2	2
大阪青山大	1	1	0	0	1	1
四天王寺大	4	2	0	0	4	2
阪南大	23	11	0	0	23	11
羽衣国際大	1	1	0	0	1	1
関西福祉科学大	2	2	0	0	2	2
大阪人間科学大	1	1	0	0	1	1
奈良学園大	1	1	0	0	1	1
その他の私立大学計	276	127	0	0	276	127
私立大学計	380	183	1	1	381	184

iv 施設等整備関係

- ・校舎本館の外壁補修・屋上防水工事（3期分／4期）
- ・校舎本館、南北両階段の天井・壁面補習・塗装工事
- ・校名銘板の設置（南側道路面、南・北校門）

v 教務関係

① 学校評価

各部署の実施計画と授業アンケートを中心に学校評価を行った。各部署については、4月末までに今年度の年間計画と取り組む内容を、10月末までに中間評価、3月末までに年度末評価を学校評価委員会に提出し、その都度校長より指導助言をいただく形で実施した。

授業アンケートについては、11月に実施し、その結果を各教員がリフレクションペーパーにまとめ、その後の授業に反映させるように行った。

② 高大連携

○現状について

関西大学、近畿大学、龍谷大学、帝塚山学院大学の4大学と高大連携協定を締結しており、それぞれの大学から特別推薦入試枠をいただいている。また新たに令和5年度、大阪工業大学と高大連携協定を締結した。また昨年同様、近畿大学経済学部にも、数学のリメディアル教育担当教員を1名派遣している。

○今後について

いくつかの大学から高大連携協定に関する話を頂戴している。しかし、生徒の希望進路等を確認しつつ本校としても長期間に渡り、責任ある関係を保つことができる大学に絞って今後の高大連携を考えていく。

③ 教職員研修会

コロナ禍明けて、教職員の幅広いスキル向上のための多くの講師先生をお招きして、校内研修会を開催することができた。

第1回教職員研修会 7月 5日（水）「夏に向けた熱中症対策のための水分補給」 WACC 今井渉先生

第2回教職員研修会 10月 3日（火）「学校防犯に関する研修会（不審者対応）」 富田林警察署

第3回教職員研修会 11月 4日（土）「主体的に生徒を促す方法/国語教育の教授法」 志桜塾 長谷剛先生

第4回教職員研修会 11月28日（火）「～AI時代の教育～教育×ChatGPT 活用研修」(株)みんがく 足立知隆先生

④ 特筆すべき行事

【海外語学研修】

コロナ禍明けて、3学期末に海外語学研修を企画して、募集を行ったが、開催定員を満たすことが出来ず今年度は実施できなかった。

<イギリス語学研修(ACEプログラム)>7月下旬～8月上旬 対象:1～3年生 希望制

資格あり、国際感覚の習得、プレゼンテーション

スキル・チームワークやリーダーシップスキルの育成の向上を目的としたパブリックスクールでの寮滞在型の研修。参加資格は英検2級1次試験合格以上。基準にクリアした生徒は、学園から一部奨励金を受け、学園・学校の代表としての誇りをもって、研修に参加する。参加者には10時間以上のネイティブ講習会等を実施する。

<カナダ語学研修>7月下旬～8月中旬 対象:1～3年生 希望制

自然豊かな風土と治安の良さ、また教育水準の高さから注目が高いカナダは、英語だけでなくフランス語も公用語として使用されているため、欧米の2つの雰囲気の中で異文化を体験できる語学研修である。

<ニュージーランド ターム留学>7月下旬～9月下旬 対象:1～3年生 希望者

9週間の海外滞在を通して、親元を離れ、現地校での授業はもちろん、世界をより深く知る機会になると同時に、日本や自分自身のことについても改めて考えることが出来る素晴らしい機会となることを目的としている。

<オーストラリア語学研修>3月下旬～4月上旬 対象:1～2年生 希望者

【修学旅行】

2年生の修学旅行は、12月5日(火)～9日(土)の4泊5日の行程で、関東方面(都内・東京ディズニーランド)と北海道方面(札幌・小樽)へ無事に実施できた。

【聖徳書道展】

令和5年度で16回目の実施となる上宮太子主催の文化活動である。伝統文化と、聖徳太子ゆかりの地にある学校として、“以和為貴”の精神を理解・継承し、「和」の心を広め、育成することを目的として開催している。例年、総本山知恩院、太子町、太子町教育委員会、毎日新聞社の後援をいただいて、令和5年度は約4000点の応募作品を得た。本校体育館の壁面に入賞作品を展示の上、「書のパフォーマンス」「表彰式」を行った。10月1日(日)に開催し、688名(昨年比+35名)の参加があった。

vi 課外活動関係

① 課外活動のあり方について

運動部:11、文化部:10(令和6年3月現在)

約8割の生徒がクラブに所属(79.9%)し、それぞれのクラブの特色に応じて活動している。各クラブにおいて目標を達成する上の過程を大切に、礼儀や挨拶等を含めた人間教育に重点を置いた指導をめざし、学校全体の活性化もねらいとしている。

② 部活動の主な成績

書道部

「第57回記念高野山競書大会」<毎日新聞社賞> 小西 康太(3年)

<全日本書道連盟賞>尾山 歩香(3年)<審査委員長賞>吉田 彩乃(3年)

「第32回国際高校生選抜書展(書の甲子園)」<入選> 小西 康太(3年)、尾山 歩香(3年)

吉田 彩乃(3年)、米田 音葉(3年)

「第74回毎日書道展(U-23部門)」<入選> 小西 康太(3年)

軽音楽部

「全国高等学校軽音フェスティバル2023」優秀賞

吹奏楽・コーラス部

「第62回大阪府吹奏楽コンクール南地区大会」銀賞

「第50回大阪府アンサンブルコンテスト」銅賞

「第23回大阪ヴォーカルアンサンブルコンテスト」銅賞

「第33回管弦打楽器ソロコンテスト大阪狭山大会予選」金賞 前田 愛羽(1年)、池田 瑞月(2年)

硬式野球部

「秋季近畿地区高校野球 大阪府予選」ベスト16

硬式テニス部

「阪南地区テニス大会 シングルス本戦」第5位 柏本 壮真(3年)

「第7回とんぼ CUP テニス大会 シングルス」準優勝 須原 佑介(2年)

ダンス部

「令和5年度 ダンスドリル秋季競技大会」関西地区 第3位

バドミントン部

「第79回大阪高等学校総合体育大会」2部 3位入賞 町田 威璃也(3年)

陸上競技部

「第78回大阪高等学校総合体育大会 陸上競技の部 3・4地区予選会」走高跳 第3位 箕浦 綾音(1年)

vii 防災対策関係

大規模災害が発生した場合は、帰宅困難者によるさらなる混乱を防ぐため、生徒をすぐには帰宅させず、学校内で待機させるという考え方が主流になっている。そのため、学校側は、生徒が最低2日間、学校内で寝泊まりできる備えが必要となる。

また、学校の復旧だけでなく、地域の帰宅困難者支援、一時滞在者の受け入れ、避難所への物資の提供等、学校にできる被災者支援を行うことが、本校の信用を高め、地域貢献に繋がる。

(備蓄品内容 一人分)

エマージョンクッキー2日分 おいしいごはん2日分 飲料水500ml2本

簡易トイレカプセル5回分 小箱

viii その他

①今年度の体育大会は6月に開催し、保護者の来校も許可して実施をした。

4年ぶりに応援合戦も復活することができ、コロナ前の元の形に戻すことができた。

上宮祭(文化祭)に関しても、4年ぶりとなる学校開催となり、2日型でおこなった。

来校者、受験生の参加も多く、飲食店も復活することができた。

②生徒を主体とした委員会活動の推進を行っている。

(令和5年度の活動実績)

生活委員会 生徒指導部と連携(啓発活動等)

保健委員会 保健室と連携(尿検査や総合検診の補助)

放送委員会 昼休みの放送・式典時の機器操作補助

図書委員会 図書室の運営(貸し借り手続き、図書整理など)